

学 校 教 育 目 標	よく考えて行動する生徒 思いやりの意ある生徒 はつらつとした生徒
目 指 す 学 校 像	一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、未来を拓く学校の創造～生徒の自立を促すことを前提に～
重 点 目 標	1 教育DXのもと、生徒が主体的に学ぶ「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 2 積極的な生徒指導と教育相談の推進による豊かな心の育成と学校行事の推進 3 コミュニティスクールによる地域とともにある学校づくりと地域に貢献する生徒の育成 4 教育環境の整備による安全・安心で豊かに学べる学校づくり 5 「凡事徹底」「率先垂範」「共汗・共感」のもと、連帯感のあるプロの教員集団の確立

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ○令和7年度の市学習状況調査では全体的に市平均正答率をやや下回っている。 ○令和7年度の市学習状況調査ではタブレットを活用した学習行っている生徒は9割を超えており、市平均を上回っている。 【課題】 ○主体的に学ぶ姿勢の育成と個別最適な学びの構築が課題である。 ○生活に根差した学習の定着と学力低位層の底上げが課題である。 ○生成A I の利活用と読解力向上が課題である。	・主体的な学びを進めるための情報端末の活用、授業改善	① 教育D X推進校として、全教員でI C Tを効果的に活用した授業を行う。 ② 語彙力・読解力向上のために朝読書を確実に実施する。	① 学力低位層の底上げ状況と市学力状況調査市平均との比較状況 ② 朝読書の実施による語彙力・読解力の変容状況 ③ 学校評価等の関連事項の回答結果					
		・実生活に生きる学びのための各教科の動機づけと教科横断的な学習の工夫	① 生徒自身が自分で学習課題を設定し、他者との対話や協働により、自分の考えを広めたり深めたりする授業を実践する。 ② 「学びの指標」の視点に基づく授業を実践する。	① 「学びの指標」の「主体的な学び」の平均値の状況 ② 教科横断的な学習状況 ③ STEAMS タイム、SDGs の取組状況 ④ 学校評価等の関連事項の回答結果					
2	【現状】 ○令和7年度学校評価における「木崎中が好き」の問いに対して、生徒、保護者とも肯定的な回答は8割を超えている。「連絡・相談に適切に対応している」の問いに対しても生徒、保護者の肯定的な回答は8割を超えている。 【課題】 ○3校の小学校からの入学があり、よりよい人間関係の構築に課題が見られる。 ○配慮を要する生徒支援の在り方が求められる。	・学校行事の活性化と豊かな心の育成	① 生徒会や生徒委員会を中心に生徒の活動の場を増やす。 ② 全校集会等の講話や道德等の授業を通し、考えさせる場面を重視する。	① 生徒の積極的な学校生活と行事等の取組状況 ② 様々な教育活動後の変容状況 ③ 学校評価等の関連事項の回答結果					
		・きめ細かい生徒指導と生徒の視線に合わせた教育相談体制の充実	① 全校三者面談（年2回）教育相談週間（各学期1回）生徒に関する連絡会（年2回）を実施する。 ② Sola る一むを組織運営する。 ③ 各部会での情報共有を徹底する。	① 生徒支援・教育相談の状況 ② 生徒の心身の健康状態の把握状況 ③ スクールダッシュボードの活用状況 ④ 学校評価等の関連事項の回答結果					
3	【現状】 ○学校運営協議会で本校生徒につけたい力、並びに地域に貢献する生徒の育成という方向が確認されている。 ○関係機関との生徒に係る連絡会は年2回開催することが定着している。 【課題】 ○地域活動に関して、教員の働き方改革との両立が課題である。 ○本校生徒の地域への関心は低くはないが、さらに高めるための工夫が必要である。	・積極的な教育活動の公開	① 学校公開日（年1回）授業参観（年3回）学級懇談（年3回）を実施する。 ② スクリレを活用する教員をさらに増やし、随時配信する。 ③ ブログ等、学校ホームページを充実させる。	① 学校ホームページ等の更新状況 ② スクリレ等の活用状況 ③ 授業参観等の保護者の参観状況 ④ 学校評価等の関連事項の回答結果					
		・木崎中生が取り組む地域活動と、地域のボランティア活動への参加	① 学校運営協議会を年間3回実施し、熟議を行い、また生徒を参加させる。 ② 地域活動に生徒を積極的に参加させる。	① 学校と地域の連携の状況 ② 生徒の地域活動の参加状況 ③ 学校運営協議会の開催状況 ④ 学校評価等の関連事項の回答結果					
4	【現状】 ○校舎や施設について、老朽化による破損・雨漏り等が多い。 ○I C T教育環境について Wi-Fi の電波状況に差がある。 【課題】 ○毎月の安全点検の確実な実施と生徒への注意喚起、生徒自身の安全への意識を高めることに課題がある。 ○タブレットが新しく交換され、管理とネットリテラシー教育をさらに徹底する必要がある。	・計画的で効果的な予算運用による教育環境の整備	① 施設管理、修繕に関する予算執行管理を徹底する。 ② 毎月の安全点検を確実に実施し、迅速に修繕する。	① 施設管理、修繕に関する予算執行状況 ② 安全点検による修繕箇所状況 ③ 学校評価等の関連事項の回答結果					
		・安全安心な学校生活実現への意識の向上	① 学校における各訓練を計画的に実施する。 ② 集会等や生徒会活動を通して、生徒自身の安全への意識を高める。危険箇所の報告指導を徹底する。	① 各訓練の実施状況 ② 安全教育の推進状況 ③ ネットリテラシー教育の推進状況 ④ 学校評価等の関連事項の回答結果					
5	【現状】 ○教育DXの推進とI C Tの活用において研究推進委員が率先して情報提供をしている。 ○研修担当が計画的に事故防止や資質向上に関する研修を行っている。 【課題】 ○教職員の経験値の差があり、資質向上の研修が常に必要なである。 ○教科の特性や経験年数によってI C Tの活用状況に差がみられる。	・I C T活用能力の向上による教育D Xの実現	① リーディングD Xスクール事業を実践する。 ② 校内研修を計画的に実施する。 ③ 教育D X推進校として市内県外へ積極的に授業公開し教育D Xを普及させる。	① 「学びの指標」の「I C Tの効果的な活用」の平均値の状況 ② 教育D X推進校としてのI C Tを効果的に活用した授業の学校内外への公開状況 ③ 学校評価等の関連事項の回答結果					
		・同僚性があり働きがいを感じる学校づくりと職員の健康確保	① デジタル採点システムを普及する等、校務を効率化する。 ② 報告・連絡・相談・見届け体制の強化と互いの声掛けを行う。 ③ 会議等を勤務時間内に終了させる。	① デジタル採点システムの活用による校務の効率化の状況 ② 教員等の勤務調査の回答結果 ③ 学校評価等の関連事項の回答結果					

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組